

＜対策のポイント＞

農業農村整備における生物多様性の保全技術の確立などの環境との調和に配慮した事業の推進に貢献する調査を実施します。

＜事業目標＞

生物多様性の保全などの環境との調和に配慮した農業生産基盤の整備推進への貢献

＜事業の内容＞

農村地域における環境の保全・形成等に必要な技術を確立するための調査を実施し、農村環境保全に資する農業生産基盤整備事業の推進方策や農業水利施設等における生物多様性の保全のための適切な対策技術を確立します。

農業農村整備においては、**環境との調和に配慮しつつ事業を実施**することが必要。このためには、水田や水路等における**生物多様性や農村環境保全のための農業生産基盤の整備のための課題**に対応した効果的な環境配慮技術の確立や施設への導入が求められています。

- 農村環境保全に資する農業生産基盤のための**対応技術の検討**
- 農業水利施設等における**生物多様性の保全のための適切な対策技術の検討** 等

＜事業実施主体＞

国（国費率：10/10）

＜事業イメージ＞

○農村環境保全に資する農業生産基盤整備のための対応技術の検討

希少動植物の移動・移植手法の検討

リスクの大きい希少植物の移植

移動・移植先としてのピオトープの設置

生物の生態（共生関係等）を踏まえた移動

例）タナゴ類はイシガイ類など二枚貝を産卵母貝として利用

■ 希少動植物の移動や移植に係る事前の調査、実施、事後モニタリングに係る手順や方法を技術資料として取りまとめ

農村地域における環境負荷の「見える化」の検討

炭焼き作業

竹炭

施用

竹の伐採作業

暗渠排水

疎水材

木炭等（地表-60～-20cm程度）

■ 竹の伐採、炭化、農地施用による環境負荷低減の取組について、温室効果ガス総排出量を算定して、脱炭素化貢献度の見える化を推進

○生物多様性の保全のための適切な対策技術の検討

外来生物による漏水等農業被害に係る対策手法の検討

ため池等農業水利施設に被害を及ぼす外来生物の駆除手法検討

外来生物駆除後のモニタリングによる環境再生の評価